

「I will ve nmo you! (ベンモするね!)」。米国の若者の間で共通語にもなっている小口送金サービスを手掛けるのが、米ペイパル子会社のベンモだ。スマートフォン(スマホ)にアプリをダウンロードし銀行口座を登録すれば、友人や家族との間で手数料なしで送金できる。割り勘やお小遣いのやりとりにも便利なキャッシュレス決済手段だ。ベンモを使った決済総額は2018年4～6月期に142億ドル(約1兆5700億円)と前年同期から約8割増えた。事業はまだ赤字だが、今後の収益化への期待から、ペイパルの株価は過去3年で2・6倍となった。同社に投資するファンドの1つが日興アセットマネジメントの「グローバル・フィンテック株式ファンド」だ。「お金のデジタル化は確実に進む」(千葉直史・商品開

# 「スマホが財布」広がる

「キャッシュレス」関連ファンドが投資する主な銘柄

社名	事業内容	ファンド組み入れ順位	過去3年株価上昇率(8月末)
<b>グローバル・フィンテック株式ファンド (日興アセットマネジメント)</b>			
スクエア (米)	小売店などでのモバイル決済	1	6.8倍
ペイパル (米)	ネット決済。個人間送金の「ベンモ」も	8	2.6倍
<b>ワールド・フィンテック革命ファンド (大和証券投資信託委託)</b>			
ビザ (米)	クレジットカード決済	1	2.1倍
ワイヤード (独)	モバイル決済システムを提供	2	5.2倍
<b>SBI日本・アジアフィンテック株式ファンド (SBIアセットマネジメント)</b>			
アイティーフォー (日)	モバイルなどの決済端末やクラウドシステムを提供	1	2.1倍
ピリングシステム (日)	スマホ決済アプリの提供やシステム開発	5	5.0倍
GMOペイメントゲートウェイ (日)	ネット決済代行。スマホ決済も	8	3.2倍

(注) ファンド組み入れ順位はSBI日本・アジアは6月末時点、その他は7月末時点。スクエアの株価上昇率は15年11月の上場以降

## 今どきの投資テーマ

### ④ キャッシュレス

約50銘柄に投資する。金の伸びだけでなく、出資融とIT(情報技術)を先のインド・Paytm融合したフィンテックの(ペイティーエム)の成中では最も注目するのがキ長も期待されている。新興国では税金の捕捉やキャッシュレス分野だ。組み入れ銘柄の上位にはペイパルのほか、小売店などでの決済サービスを手掛ける米スクエアや「アップルペイ」の米アップルが並ぶ。中国のリババ集団は「アリペイ」設定来で50%を上回る。

## 各国の政策も追い風

の「ワールド・フィンテック革命ファンド」はペイパルのほか、クレジットカードの老舗、米ビザも投資先だ。ファンドを運用するアクサ・インベストメント・マネージャーズのウィンセント・ヴィナティエール氏は、「世界で小売りに占める電子商取引(EC)の割合は1割以下。利便性を求めて拡大が続き電子決済も必ず伸びる」と語る。両ファンドとも日本企業の組み入れ比率は37%と少ない。日本のキャッシュレス決済比率は15年時点で18%。「現金信仰」が根深く、韓国(89%)や中国(60%)、米国(45%)を下回る。だが、裏を返せば商機がそれだけ大きいともいえる。主に日本企業に投資するのがSBIアセットマネジメントの「SBI日本・アジアフィンテック株式ファンド」だ。投資先の1社がGMOペイメントゲートウェイだ。(成瀬美和)

だ。スタートアップの「スタートウウェイ」の衣料品通販「ゾータウン」などのECや、公共料金などの決済システムを担う。決済処理に際して手数料収入が伸び、収益拡大が続いている。「東京五輪に向けて店頭でのキャッシュレス化が進むのも追い風」(同社)だ。

年7月にスマホ決済アプリ「PayB」のサービスを始めた。公共料金などの払込票をスマホのカメラで読み込めば、銀行口座とつないで決済できる。メガバンクなど24の銀行と契約し、加盟店は電力・ガス会社など4000に増えた。「来年には1万社を超える」(江田敏彦社長)という。

経済産業省は今年4月、国内のキャッシュレス比率を25年に40%に高め、将来は80%を目指す方針を打ち出した。こうした政策も関連企業の株価の支援材料となりそう